

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

| | | | | | |
|-----------|-------------|--------------|------|-------|------|
| 評価対象事務事業名 | 家族介護慰労金支給事業 | | | 事業コード | 0430 |
| 担当課等 | 所属名 | 保健福祉部 高齢者支援室 | | 担当係名 | |
| | 課長名 | 渡邊 光市 | 担当者名 | 宮 香織 | 電話番号 |

1. 事務事業の基本情報

| | | | | | | |
|---|---|-----------------|----------|-------------|---------------------------------|----------|
| 総合計画体系 | 施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし | コード 1 | 施策 | 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実 | コード 4 |
| | 基本事業 | 高齢者福祉サービスの充実 | コード 2 | 関連予算 費目名 | 介護保険費特別会計 4款 2項 2目 任意事業(001-01) | |
| | 特記事項 | | | | | |
| 事業期間 | <input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度 ⇒ (開始年度 平成13年度～) | | | | | |
| 事務事業の概要 | 介護保険によるサービスを受けずに、在宅の要介護者(要介護4及び5)を通算で1年以上介護している家族に対して、慰労金を支給し、負担の軽減を図る | | | | | |
| 根拠法令等 | 盛岡市在宅要介護家族慰労金支給事業 | | | | | |
| この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか) | | | | | | |
| 平成12年度の介護保険制度施行時に、国が介護保険サービスを利用しない介護者に対しても慰労金を支給する制度を創設し、その制度に基づき当該事業が開始された。 | | | | | | |
| この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか | | | | | | |
| 市民からは在宅での介護は経済的な負担も大きいため、慰労金支給制度の継続を要望されている。 | | | | | | |
| 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか | | | | | | |
| 介護保険制度が浸透し、介護保険サービスの利用は一般的になってきている。しかし、要介護者自身がサービス利用を拒んだり、サービス利用費の経済的負担からサービスを利用できないなど、在宅介護を継続している家族もいる。今後もその傾向は続くと考えられることから、事業の継続が求められる。 | | | | | | |

2. 事務事業の実施状況(Do)

| | | | | | | |
|--|--|---|--------------------------|---|----|---|
| ①対象 (誰を、何を対象としているのか) | 介護保険の介護認定区分が要介護4又は5に該当する市県民税非課税世帯の高齢者で、過去1年間介護保険サービスを受けなかった者を介護している家族。 | ⇒ | ②対象指標 (対象の大きさを示す指標) | A. 支給人数 | 単位 | 人 |
| | | | | B. | 単位 | |
| | | | | C. | 単位 | |
| ③手段 (事務事業の内容、やり方、手順) | 22年度実績(22年度に行った主な活動) 対象候補者に対して文書にて周知をし、申請に基づき、要介護者1人につき年額10万円の慰労金を支給した。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 22年度に同じ | ⇒ | ④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標) | A. 支給金額 | 単位 | 円 |
| | | | | B. | 単位 | |
| | | | | C. | 単位 | |
| ⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか) | 家族による在宅介護を続けることができるようにする。 | ⇒ | ⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標) | A. 支給者数/介護保険認定要介護4又は要介護5の在宅者数×100 【指標の性格: <input type="radio"/> 上げる <input type="radio"/> 下げる <input checked="" type="radio"/> 維持する】 | 単位 | % |
| | | | | B. 【指標の性格: <input type="radio"/> 上げる <input type="radio"/> 下げる <input type="radio"/> 維持する】 | 単位 | |
| | | | | C. 【指標の性格: <input type="radio"/> 上げる <input type="radio"/> 下げる <input type="radio"/> 維持する】 | 単位 | |
| ⑦結果 (上位基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するか) | 日常生活を安心して不便なく送ることができる | ⇒ | ⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標) | 相談などを受けている高齢者数(単位:人) 介護予防事業参加者数(単位:人) 介護保険サービス利用者数(単位:人) | | |

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | 目標年度 目標値 |
|-----------|------------------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 対象 指標A | 支給人数 | 人 | 7 | 6 | 10 | 4 | 10 | | 年度 |
| 対象 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 対象 指標C | | | | | | | | | 年度 |
| 活動 指標A | 支給金額 | 円 | 700,000 | 600,000 | 1,000,000 | 400,000 | 1,000,000 | | 年度 |
| 活動 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 活動 指標C | | | | | | | | | 年度 |
| 成果 指標A | 支給者数/介護保険認定要介護4又は要介護5の在宅者数 ×100 | % | 0.5 | 0.25 | 0.25 | 0.13 | 0.25 | | 年度 |
| 成果 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 成果 指標C | | | | | | | | | 年度 |

⑩事務事業に係る事業費

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | ***** |
|----------|--------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 事業費 | A | 千円 | 700 | 600 | 1,000 | 400 | 1,000 | | ***** |
| 財源 内訳 | ④国 | 千円 | | 240 | 400 | 160 | 400 | | ***** |
| | ⑤県 | 千円 | | 120 | 200 | 80 | 200 | | ***** |
| | ⑥地方債 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑦一般財源 | 千円 | 0 | 120 | 200 | 80 | 200 | 0 | ***** |
| | ⑧その他 | 千円 | 700 | 120 | 200 | 80 | 200 | | ***** |
| | 合計(④~⑧)(=A) | 千円 | 700 | 600 | 1,000 | 400 | 1,000 | | ***** |
| | 延べ業務時間数 | 時間 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | | ***** |
| | 職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む) | 千円 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 0 | ***** |
| | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 900 | 800 | 1,200 | 600 | 1,200 | 0 | ***** |


3. 事務事業の評価(See)

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 必要性評価 | <p>①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？</p> | <input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている | 理由: 家族介護者の精神的及び経済的な負担軽減が要介護者の在宅生活維持に繋がることから結びついている。 |
| | <p>②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？</p> | <input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である | 理由: 介護者への経済的支援は市以外に行うものがない。 ↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 |
| | <p>③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？</p> | <input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である | 理由: 家族介護者の経済的負担を軽減し、在宅での介護を支援することで、要介護者を介護している人への慰労を図るものである。 ↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 |
| | <p>④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？</p> | <input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である | 理由: 家族介護者の経済的負担を軽減し、在宅での介護を支援することで、要介護者の在宅生活を維持を図ることを目的としていて、妥当である。 |
| 有効性評価 | <p>⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？</p> | <input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない | 理由: 適切な対象者への支給となっている。 |
| | <p>⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？</p> | <input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある | その内容: 慰労金を介護にかかる費用に当てているため、当事業がなくなることで介護者の精神的及び経済的な負担が増加する。 |
| | <p>⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？</p> | <input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない | 事業名: ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: |
| 効率性評価 | <p>⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？</p> | <input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない | 理由: 介護保険サービスを利用せずに在宅介護を行っている家族に対しての支援であり、削減できない。介護保険制度の利用に移行することで慰労金の支出は抑制されるが、結果的に財政的支出は大きくなる。 |
| | <p>⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？</p> | <input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない | 理由: 支給対象者候補者を抽出する作業に係る時間がほとんどであり、削減できない。 |
| 公平性評価 | <p>⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？</p> | <input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない | 理由: 在宅において、介護保険サービスを利用せずに重度の要介護高齢者を介護している人へは事業の周知を行っており公平・公正である。 |
| | <p>⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？</p> | <input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない | 理由: 低所得者を対象に慰労金を支給するため、受益者負担を設けることは適正でない。現状で公平公正である。 |

4. 事務事業の改革案(Plan)

| | |
|------------|--|
| 改革 改善方向 | ①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること ②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む) |
|------------|--|

5. 課長意見

| | | |
|--|--|---|
| 一次評価 | (1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : | (2)全体総括(振り返り, 反省点) 見守り支援の取組みとして, 事業の必要性は高い。事業内容の検証を行いながら, 継続する必要がある。 |
| 今後の方向性と改革改善案 | (3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 | |
|  方向付けの理由と改革改善の内容 | | |